

8. 地域創生

8.1 地域創生委員会（能登キャンパス構想班・COC+・グローバル人材育成班）

委員長：川島 和代 教授

委員：西田事務局長、垣花教授、平居教授、谷本准教授、田村助教、金子助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

令和元年度から、グローバル人材育成、能登キャンパス構想推進協議会（主に能登祭りの環実行委員会）、COC+に関する事業等の活動を「地域創生委員会」に集約し、活動の効率化・スリム化を図った。令和2年度以降、委員会メンバー構成が変更となり円滑に運営できるよう実施していく予定であった。

<今年度の目標・年度計画>

今年度の委員会運営を開催する前に、本学では新型コロナウイルス感染症のためすべての地域活動を自粛・中止とした。また、能登キャンパス構想推進協議会の事業の1つである能登祭りの環も開催が見送られた。感染状況の推移を見守りながら、大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会や能登キャンパス構想推進協議会等から事業等の情報収集を行うこととした。

<今年度の活動実績・評価>

1) 能登キャンパス構想班（川島、平居、谷本、田村）

協議会（年2回）と幹事会（年4回）、実行委員会（年4回）へリモートで出席した。今年度5月には「祭り支援プロジェクト（能登祭りの環インターンシップ事業）」で本学が担当している能登町の矢波諏訪祭りは開催の中止が決まったため活動は休止した。その中で能登地区の病院紹介ブースや奥能登のさまざまなイベント紹介コーナーの更新を図った。

2) COCプラス・グローバル人材育成班（川島、垣花、金子）

大学コンソーシアム石川産学官連携人材育成専門部会（年4回）において委員長川島が副部長に選出された。しかしながら、コロナ禍のためグローバル・ヤングリーダー等、グローバル人材の育成には至らなかった。次年度から「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」に改編するために本学のプログラムの検討を委員会内で行い、学長、教務委員長に相談の上、申請することとした。また、過去の『トビタテ留学JAPAN』に参加した他大学の学生の成果報告会（令和3年3月4日開催）に、本学教員3名、学部学生5名が会場・オンライン等で参加した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

感染の動向を見ながら、本学の学生の地域活動再開に向けた緩和の方針を見定めながらできる活動を支援していくとともに「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」の承認、学内周知・運用を図る。また、グローバル・ヤングリーダーの称号獲得した卒業生のその後の活動を明かにし、本事業の効果を検証する。